

## 【第1号議案】令和4年度事業報告

### 1 事業の成果

令和4年度は、昨年度同様【コミュニティサポート事業】【女性・子ども支援事業】【就業・起業支援事業】【シティプロモーション事業】【中間支援事業】の5つの分野から活動を展開した。

【コミュニティサポート事業】は、「手のひらでつながるスマホカフェプロジェクト事業」「食が創るコミュニティ形成事業」「とめ地域循環共生圏まちづくりプロジェクト」を実施した。

「手のひらでつながるスマホカフェプロジェクト事業」は地域住民と登米市に移住してきた震災被災者の交流を図る取り組みとして登米市内での実施したほか、南三陸町でのスマホカフェの開催も実現でき、登米市民と南三陸町民との交流をさらに深めることが出来た。

「食が創るコミュニティ形成事業」は過去2年間の事業の実績からイベントを企画実施できる調理スタッフを3名育成することができ、22回のランチ会および2回のランチテイクアウトを実施することが出来た。うち1名は令和5年度に大崎市で飲食店を開業予定である。

新規事業として「とめ地域循環共生圏まちづくりプロジェクト」に取り組んだ。これは前年度立ち上げた「おかえりの里プロジェクト」で議論された課題の解決が期待されるものである。登米市の自然環境や地域資源を活かしたまちづくり・地域活性化の実現のために地域循環共生圏まちづくりという考え方が有効であるという道筋を作ることが出来た。

【女性・子ども支援事業】は地域住民とのネットワークづくりを進めながら女性や子どもの暮らしやすい社会づくりを進めることを目的に、とめ女性支援センター運営事業と放課後子ども居場所・見守り事業を実施した。

【就業・起業支援事業】では、コワーキングスペース SOU 利用者およびアルテラスおおあみ出店者に対する販路紹介等の販売支援を行った。

【シティプロモーション事業】は、「おかえりの里プロジェクト」のメンバーを中心に各 SNS において「ハッシュタグとまらない町とめ」で登米市の魅力を発信する活動を展開した。

【中間支援事業】ではとめ市民活動プラザの業務委託を受託し、コロナ禍でのコミュニティの地域づくりを支援する体制をとった。

長引くコロナ禍において、上記事業以外にもオンラインおよびオフラインでの情報セッションを通じて、地域課題の発見やその解決に向けて汗を流した一年となった。弊法人の活動に対してご支援を頂いた皆様から心からの感謝を申し上げるとともに、令和5年度以降の活動も期待に応えるべく、地域社会のサポートと発展に尽力し、新たな価値の創出に向け、スタッフ一丸となって取り組んでいきたい。

## 2 事業の実施に関する事項（特定非営利活動に係る事業）

事業(1)	手のひらでつながるスマホカフェプロジェクト事業	実施日時	令和4年8月1日～ 令和5年3月31日
実施場所	登米市、南三陸町	従事者数	2人
受益対象者	参加者108人（実数）	事業分類	コミュニティサポート事業
事業目的	<p>震災被災者にとってくつろげる憩いの場所となるよう近隣のカフェとコラボし「スマホカフェ」を開催し、スマホの操作やSNSの活用方法、アプリの活用方法などを教えながら、ゆったりとした時間を過ごせる場を提供する。</p> <p>またお茶っこスマホ教室に参加した被災者より南三陸町でも開催してほしいという要望に応え、南三陸町の上山八幡宮の工藤真弓さんと連携し「神社カフェ」を開催する。スマホ教室以外に紙芝居の上演や、絵本の朗読会などのイベントを自主企画で行い、被災者たちが主体的にイベントを企画することで心の復興への後押しをする。</p>		
事業内容	<p><b>1. スマホカフェの開催</b></p> <p>・とめタウンネットが事務所を構える大網町内にある2カ所のカフェを半日借り上げて、スマホカフェを開催した。うれしやTOME本店では、手づくり好きなみなさんが主に集まり、その中には、南三陸から引っ越してきた人たちもみられ、既存コミュニティの人たちや、登米市外からの参加者との交流も図ることができた。</p> <p>喫茶サリダには、当初、大網町内に暮らす南三陸から移住してきた人たちの参加を期待したが、「おしゃれすぎる」「階段で上がらなければならない」と高齢者には不評だった。そこで、近隣の喫茶店を探したところ、喫茶サリダからさほど離れていない南方町に志津川から移住してきた人が経営する喫茶店「風」があることが分かった。オープンから間もないので、店主の方も地域に貢献したい、馴染みたいという意向があったので、11月から会場を変更した。</p> <p>「風」には、店主を慕ってくる南三陸在住の方や、登米に移住してきた被災者も見られ、震災後親交が途絶えてしまった方達が再会を喜ぶ場面も多くみられた。</p> <p>スマホを使って情報発信を気軽にできるようになった参加者は、南三陸や登米の風景やイベントなどを積極的に発信している。また同じハッシュタグを使って仲間通しつながる試みもみられた。</p> <p><b>開催日とその様子</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・うれしやTOME本店 <ul style="list-style-type: none"> <li>8月24日、9月29日、10月21日、11月11日、12月2日</li> <li>1月13日、2月10日、3月10日</li> </ul> </li> <li>・喫茶サリダ <ul style="list-style-type: none"> <li>8月29日、9月26日、10月31日</li> </ul> </li> <li>・自家焙煎珈琲幸房 風</li> </ul>		

11月28日、12月12日、1月30日、2月27日、3月27日



うれしやTOME本店 (3/10)



喫茶サリダ (9/26)




風 (11/26)

## 2. 神社カフェの開催

・第1回目は、地域活性化グループ「上の山しおかぜ学校」が開催する「しおかぜ文化祭」と共催で神社カフェを開催した。

・弊社が南三陸町の小学生と作った「紙芝居」を観たいというリクエストに応え、結の里と戸倉復興住宅の2カ所で「紙芝居カフェ」を開催した。結の里では、登米市の仮設住宅で暮していた方から声をかけていただき、うれしやTOME本店で手づくりを楽しんでいる被災者の方との再会をお繋ぎすることもできた。

コロナ禍でイベントの中止が続いていたが、ようやく日常に戻りつつある。特に戸倉災害公営住宅では3年ぶりの外部からのイベントだったとのことで、今後も住民同士がつながるきっかけづくりを手伝ってほしいと言われた。

	 <p>神社カフェ 11/3 (上山八幡宮) <span style="margin-left: 150px;">3月7日(南三陸町結の里), 3月9日(上山八幡宮)</span> 3月29日(戸倉災害公営住宅)</p>
<p><b>成 果</b></p>	<p><b>直接的な効果 (アウトプット)</b></p> <p>スマホカフェは開催場所によって参加者層が異なり、それぞれ参加者の適正に応じたスマホの使い方をお教えすることができた。</p> <p>南三陸では、上山八幡宮および南三陸社会福祉協議会のご協力のもと、多くの南三陸町町民の参加を得ることができた。</p> <p><b>波及的効果 (アウトカム)</b></p> <p>スマホカフェでは、カフェ起業に興味のある方や、実際に雑貨ショップやキッチンカーなどを起業された方も参加され、スマホを使ったチラシづくりなど、起業の伴走支援的な役割を果たすこともできた。</p> <p>南三陸町では、コロナ禍で外部ボランティアのイベントが中止されていたので、特に戸倉復興住宅のみなさんからは、大変喜ばれた。独居高齢者の見守りも含めて、スマホカフェやお食事会を開催したいとの提案もいただいている。</p> <p>※令和4年度宮城県 NPO 等による心の復興支援事業</p>

<p><b>事業 (2)</b></p>	<p>食が創るコミュニティ形成事業</p>	<p><b>実施日時</b></p>	<p>令和4年4月1日～ 令和5年3月31日</p>
<p><b>実施場所</b></p>	<p>とめ女性支援センター コワーキングスペース ENGAWA</p>	<p><b>従事者数</b></p>	<p>5人</p>
<p><b>受益対象者</b></p>	<p>参加者 175名 (延べ数)</p>	<p><b>事業分類</b></p>	<p>コミュニティサポート事業</p>
<p><b>事業目的</b></p>	<p>キューピーみらいたまご財団助成プログラム A「特定課題3年継続助成」の3年目。過去2年の事業で調理できる人材を3人育成したが、3年目は地域食堂「みんなで作ってみんなで食べるみんな食堂」として月2回のお食事会を実施した。家庭で簡単にできるレシピや季節に応じた「食べ方」について啓蒙活動を進めた。</p>		
<p><b>事業内容</b></p>	<p>調理スタッフを3人育成し、それぞれ、子どもがメインで料理を作る「コドモキッチンとフラワーアレンジメント教室とのコラボの「お花とお昼の会」、旬の食材を活かした「雑穀ベジランチ会」を開催した。</p>		

実施日と活動の様子



「コドモキッチン」(宮本菜摘)

4月9日,7月24日,8月6日  
9月4日,10月8日,11月5日  
12月17日



「お花とお昼の会」

(宮本菜摘、高橋美紀、遊佐明子)  
5月17日,6月21日,7月26日,8月30日  
9月27日,10月18日,11月22日,12月21日  
1月18日,2月15日,3月8日



「雑穀ベジランチ」(遊佐明子)

8月29日、9月26日、10月31日

成 果

食育活動の出来る人材を育成し、活動の場を設定することが出来た。それぞれの会のファンも出来た。発酵、雑穀、玄米菜食、漢方など、健康寿命延伸のための食育活動をするためのコンテンツを確立することができた。さらに、宮城県登米農業改良普及センターや登米市のグリーンツーリズム事業からお弁当の注文を受けるなど、仕事づくりへの可能性をも見出すことができた。

※キューピーみらいたまご財団助成プログラム A「特定課題3年継続助成」を活用。  
『健康寿命延伸のための食育活動 とめコミュニティ・キッチン「みんな食堂」プロジェクト』として活動した。

事業(3)	とめ地域循環共生圏まちづくりプロジェクト	実施日時	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日
実施場所	登米市,大網地区	従事者数	2人
受益対象者	一般市民、不特定多数	事業分類	コミュニティサポート事業

<b>事業目的</b>	<p>朝の連続テレビドラマの舞台になった登米市は、森林が約 41%、農地が 34%を占める緑豊かな地域で、ラムサール条約に登録されている伊豆沼・内沼、東北最大の河川北上川が流れるなど、自然環境に恵まれている。</p> <p>その豊かな自然環境を持続し次世代へ継承するために、住民自治基礎単位である「コミュニティ（市内およそ小学校単位で 21 のコミュニティがある）」や、合併前の旧町単位（9つの町が合併した）で地域資源のたな卸しを行い、自立・分散型の地域ガバナンスを確立し、各コミュニティ、各旧町間の相互補完の関係を築き、持続可能な地域づくりを实践するための体制づくりを実施する。</p>
<b>事業内容</b>	<p><b>1. 「地域循環共生圏」を学ぶ・考える</b></p> <p>「地域循環共生圏」の構築方法を学ぶために、講師を招いた勉強会や市民同士のブレーストミーティングの場を開催した。</p> <p>&lt;勉強会&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5 月 25 日（地産地消費エネルギーについて）</li> <li>・ 8 月 24 日（バイオガス発電について）</li> <li>・ 10 月 14 日（とめ生きもの多様性プラン）</li> <li>・ 3 月 22 日（水・里・森から登米を考える）</li> </ul> <p>&lt;ブレーストミーティング&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 水曜会 毎週水曜日、オンラインで開催</li> <li>・ 水曜どうしよう？ 1 月 12 日、2 月 15 日、3 月 15 日</li> <li>・ ニッティングビー 10 月 28 日、11 月 25 日、12 月 23 日 1 月 20 日、2 月 17 日、3 月 17 日</li> </ul> <div data-bbox="440 1182 858 1547" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="563 1563 703 1594" data-label="Caption"> <p>勉強会 (3/22)</p> </div> <div data-bbox="880 1182 1248 1547" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="895 1563 1233 1594" data-label="Caption"> <p>ニッティングビーの告知チラシ</p> </div> <p>&lt;地域資源マップの作成&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 登米市 9 町域ごとに地域資源のたな卸しをしてオンラインマップを作成した。</li> </ul> <p><b>2. 活動を知らせる、募る</b></p> <p>地域循環共生圏について普及啓発を図るために、ニューズペーパー「とめっコぐらし通信」を毎月発行した。</p>

<p><b>成 果</b></p>	<p>登米市民ならではの、地域循環共生圏へのアプローチの方向性が見えた。また、その方向性を実現させるためのキーパーソンとのネットワークを構築することが出来た。</p> <p>※令和4年度地球環境基金助成事業を活用</p>

<p><b>事業(4)</b></p>	<p>とめ女性支援センター運営事業</p>	<p><b>実施日時</b></p>	<p>令和4年4月1日～ 令和5年3月31日</p>
<p><b>実施場所</b></p>	<p>とめ女性支援センター他</p>	<p><b>従事者数</b></p>	<p>3人</p>
<p><b>受益対象者</b></p>	<p>一般市民、不特定多数</p>	<p><b>事業分類</b></p>	<p>女性・子ども支援事業</p>
<p><b>事業目的</b></p>	<p>各種イベント、セミナー、プログラム等を実施し、登米市や南三陸町を中心とする女性支援に携わる団体・個人のネットワークを形成し、利用者の増加を図る。 また、世代を超えて協力しあえる関係性を築く学びの場づくりを行う。</p>		
<p><b>事業内容</b></p>	<p><b>1. コミュニティカフェ・うれしやTOME 本店サポート</b> 登米女性支援センター内のコミュニティカフェ・うれしや TOME 本店を運営する登米市米山の(株)かのファームに対する各種サポートを実施した。</p> <p><b>2. 各種相談対応の実施</b> 女性の抱える様々な問題の相談対応を実施した。 新型コロナウイルスの影響による経済的理由などから、様々な不安を抱える女性への相談支援や居場所の提供・紹介を行った。</p> <p><b>3. 大人の部活の開設</b> 空き部屋になっていたスペースを「大人の部室」として開放し、自主的なサークル活動を企画・実施できる人材育成に努めた。</p>		

	
<p><b>成 果</b></p>	<p>「大人の部室」の開設は、地域の人々が集まり共通の興味や趣味を共有する機会を増やすことができた。</p> <p>異なる世代や文化が交流する場として、地域住民に新たな交流の場としてさらなる利用の拡大を促進したい。</p>

<p><b>事業 (5)</b></p>	<p>放課後子ども居場所・見守り事業</p>	<p><b>実施日時</b></p>	<p>令和4年4月1日～ 令和5年3月31日</p>
<p><b>実施場所</b></p>	<p>コンテナおおあみ</p>	<p><b>従事者数</b></p>	<p>3人</p>
<p><b>受益対象者</b></p>	<p>地元の子供達10人程度及びその保護者</p>	<p><b>事業分類</b></p>	<p>女性・子ども支援事業</p>
<p><b>事業目的</b></p>	<p>放課後、ひとりで過ごす時間が多い子どもたちが安心して過ごせる、子ども達の育ちを地域で支える居場所を作る。</p>		
<p><b>事業内容</b></p>	<p>地域の児童民生委員などの有志からなるビックネットと協力し、子ども達が放課後過ごせる場所として、毎週月、水、金の午後3時半から5時半にコンテナおおあみの1階のミーティングルームを開放した。ビックネットの皆さんには子供たちの見守りとして協力いただいた。</p>		
<p><b>成 果</b></p>	<p>コロナ禍のため市内で感染が増えた場合はお休みをする時期もあったが概ね予定通りの日程で開催出来た。見守り協力隊のビックネットのメンバーも増えた。</p>		



事業(6)	コワーキングスペース運営サポート	実施日時	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日
実施場所	コンテナおおあみ	従事者数	3人
受益対象者	入居者6名、施設来訪者延べ100名	事業分類	就業起業支援事業
事業目的	コワーキングスペース SOU の利用拡充とサービス内容の充実を図る。		
事業内容	入居者同士のライングループを作り、スペースの利用状況を把握するなど、スペースの円滑な利用が出来るよう各種サポートを実施した。 また、入居者の主催するイベントの宣伝などのサポートもおこなった。		
成果	ドロップイン利用が月1～2名程度あったほか、期間限定での入居も2名あった。 登米市でのコワーキングスペースとして認知されてきた。		

事業(7)	創業チャレンジャー支援事業	実施日時	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日
実施場所	アルテラスおおあみ他	従事者数	2人
受益対象者	アルテラスおおあみ出店者及び 出店希望者	事業分類	就業起業支援事業
事業目的	起業希望者に対する支援を実施し、地域経済の持続的発展を図る。		
事業内容	<p><b>1. アルテラスおおあみ出店者・出店希望者に対する相談対応及び販売支援</b></p> <p>出店者同士が気軽に交流するための支援や販路紹介等の販売支援を行った。 また、出店者交流会を実施することで、他の出店者がどんな人で、どんな目標を持っているのかを知ることができたり、事業の立ち上げや起業に関する悩みを相談できる仲間と出会う場を提供した。</p> <p><b>2. コバコBOX支援事業</b></p> <p>とめ女性支援センター内うれしやTOME本店に設置された小型の販売展示レンタルBOXに出店する女性手作り作家に対し、イベントやワークショップ開催のPR、販路や商品のブラッシュアップ等の支援を実施した。</p>		
成果	アルテラスおおあみにコワーキングスペース ENGAWA が新規オープンした。この場所がアルテラスおおあみの出店者たちのハブ機能を果たしつつある。		



事業(8)	「ハッシュタグとまらない町とめ」事業	実施日時	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日
実施場所	Web上	従事者数	3人
受益対象者	登米市民	事業分類	シティプロモーション事業
事業目的	登米市の魅力をSNSで発信し、登米のファンを作る。		
事業内容	おかえりの里メンバーの協力のもと、各種SNSで登米市の魅力を「ハッシュタグとまらない町とめ」をつけて発信する。発信された情報を収集し、とめっコぐらし通信の記事としてさらに情報拡散を図る。		
成果	Instagram内での記事は1年間で450を超えた。当初はおかえりの里メンバーが発信していたが、一般市民からの発信もみられるようになった。		

事業(9)	とめ市民活動プラザ運営事業	実施日時	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日
実施場所	とめ市民活動プラザ	従事者数	4人
受益対象者	NPO・市民活動団体・コミュニティ組織	事業分類	中間支援事業

<b>事業目的</b>	協働によるまちづくりを推進するため登米市が設置している「とめ市民活動プラザ」の運営を受託し、市民活動に関する情報提供や各種相談、多様な主体と協働した仕組みづくりや人材育成などを実施する。
<b>事業内容</b>	<p><b>1. 市民活動に関する情報の収集、提供及び発信業務</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 機関紙「ぷらっと・とめ」の発行・配布（年4回 6月、9月、12月、3月）</li> <li>(2) コミュニティFMによる情報の発信（まるっと!とめ Like は23回放送）</li> <li>(3) 県内外のNPO・市民活動団体等の活動情報の収集及び提供</li> <li>(4) NPO・市民活動団体等のデータベース管理（NPO団体27団体、任意団体67団体）</li> <li>(5) 地域課題の解決を図る取り組みの情報収集及び提供</li> <li>(6) 窓口スタッフによる各種相談対応、情報提供、案内</li> </ul> <p><b>2. NPO・市民活動団体・コミュニティ組織等への支援業務</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) ホームページ等による情報発信</li> <li>(2) 無料専門相談会の開催（5回開催、相談件数6件）</li> <li>(3) NPO等支援事業NPO交流会の開催（2回、20名）</li> <li>(4) 地域づくり計画の実践支援及び各種相談業務</li> <li>(5) NPO・市民活動団体等のイベント協力や取材</li> <li>(6) NPO・市民活動団体等と行政との連携、協働の推進</li> <li>(7) 市民活動支援に関する調査、研究、支援</li> </ul> <p><b>3. 人づくり・人材育成支援業務</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 人材育成講座の開催（5回開催、参加人数89名）</li> <li>(2) 市民向け講座の開催（6回開催、参加人数249名）</li> <li>(3) 市との連携事業・令和4年度地域づくり事業事例発表会（82名）</li> <li>(4) 労務会計講座の開催（1回開催、参加人数66名）</li> <li>(5) スタッフ研修（各種研修及び会議の参加30件）</li> </ul> <p><b>4. 施設の運営に関する業務</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 施設案内及び利用者への対応（交流・会議スペースの利用者733人）</li> <li>(2) 施設及び設備（印刷機等）の利用への対応</li> <li>(3) 利用者状況資料の作成・報告（月次・年次）</li> <li>(4) 施設設備の管理に関すること</li> <li>(5) 職員体制の計画・労務管理</li> </ul>